

ふぞくの風



「ありがとう」を考え続けた1年 ～谷川俊太郎の詩を通して改めて考えてみる～

校長 橋元 忠史

本年度も残り1か月を切りました。学校ではもちろんですが、各家庭でも子どもたちの心身の成長について改めて振り返り、子どもの成長を実感する時期となります。本年度は、学校の生活指導の重点と併せてPTAでもありがとうの心を重視して親子や家庭の在り方を考えてきてもらいました。

学校でもあらゆる場面で「ありがとう」という言葉やこの言葉のもつ意味について考えてきました。この学校だよりでも何度も記載されました。そんな「ありがとう」ですが、子どもたちはもちろん、保護者の皆様にもとても親しみのある詩人、谷川俊太郎さんの作品にも、この言葉を題名にした詩があります。

谷川俊太郎さんといえば『生きる』が多くの学校で使われていた国語の教科書に掲載されていたので、なじみ深い方も多いのではないのでしょうか。「生きているということ いま生きているということ それは・・・」で始まるあの詩です。多くの方が「覚えさせられたわぁ」とか「クラスみんなで朗読したなぁ」といった記憶があるのでは。また、年末の訃報を聞き、書店に並んだ作品集に手を伸ばした方も多かったのではないのでしょうか。

谷川俊太郎さんの『ありがとう』は、4行4連のシンプルな詩作で学校だより第2号の内容と併せて読んでいただくと3連目まではとても分かりやすい詩だと思います。しかし、4連目の「私 ありがとう」については、人知を超えた存在への畏敬の念や私という存在を客観的に問う認識といった解釈の幅が広がる素敵な構成となっています。

ぜひ、ご家族でこの詩を音読したり、語り合ったりしながら、自分にとっての本年度の「ありがたし」を振り返るきっかけにしていいただければと思います。



私 ありがとう	限り ない世界 に向かっ て私は 呟く	私に 私を くれた のは？	でも誰 だろう 何だろ う	一度 つきり しか言 わない けれど	口に出 すのは 照れく さいか ら	私を生 んでく れて	お母さ んあり がと	でも匂 いも色 ももう 私の一 部	明日は 散って しまっ たかも しれな い	今日も 咲いて いてく れて	花あり がと	宇宙へ と青く ひろが っている のが	曇って いても 分かる よ	今日も 私の上 にいて くれて	空あり がと	ありがとう	谷川 俊太郎
------------	---------------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------------	-------------------------------	------------------	------------------	-------------------------------	--------------------------------------	-------------------------	-----------	---------------------------------	------------------------	--------------------------	-----------	-------	-----------

【3月の主な行事】

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 4日(火) 学年・学級PTA(高)
6年生図書返却完了日 | 11日(火) 防災について考える日
6年生を送る会 |
| 5日(水) 学年・学級PTA(中) | 13日(木) 卒業式予行 |
| 6日(木) 学年・学級PTA(低)
1～5年図書貸出最終日 | 18日(火) 卒業式(1～3年生は休み) |
| | 25日(火) 修了式・辞任式
春季休業～4月6日 |

● 生き生きと学び、活動する子どもの姿 ～公開研究会 PART II～

2月15日(土)、公開研究会PART IIを開催しました。休日ではありましたが、県内外から約280名の教職員を始め、教育関係者の方が来校されました。

今回の公開研究会は、各教科の授業だけではなく、総合的な学習の時間(マイプロジェクト)も公開し、子どもたちが自分の探究課題の解決に向けて、各々が計画した場所や内容で活動に取り組む様子を参観していただきました。また、各プロジェクトの代表児童が取り組んでいることを説明・発表したり参加者と質疑応答したりする分科会を設定するといった新しいスタイルでの公開研究会でした。

各教科の授業においては、子どもたちが主体的に問題解決に取り組んだり、学習することに対して必要感をもって取り組んだりする姿が見られました。授業終末の振り返りでは、「問題を解決するために〇〇な方法で調べてみました。」「授業で〇〇だということが分かりました。」「次の時間では、〇〇について追求していきたいです。」といった声が聞かれました。

総合的な学習の時間(マイプロジェクト)や分科会においては、子どもたちが目を輝かせながら探究する姿や説明・発表する姿を見て、参加者が興味津々に質問する様子がありました。

「何について探究しているの。」「探究してどのようなことが分かってきたの。」「これからどのようなことを解決していきたいの。」といった質問に対して、自分の言葉で堂々と説明する子どもたちの姿に、参加者もわたしたち職員も子どもたちのもつ探究心や主体性に感心させられました。

次年度は、附属小学校の使命である「教職の魅力発信基地」「授業創造の学び場」として、年2回の学校公開を実施し、子どもも教師も生き生きと学ぶ姿を県内外へ発信していきます。



【食材を吟味する様子(5年家庭科)】



【探究の過程を参加者へ伝える子どもの様子】

● 子どもたちの思いの詰まった児童会旗 完成!

仲良し交流委員会の子どもたちが中心となって児童会旗を刷新することになり、先日、完成した新しい児童会旗のお披露目がありました。仲良し交流委員会委員長の堀田唯華さんに聞いてみました。

◆ 刷新のきっかけは?

附属小が変わりつつあり、以前より学校全体が一丸となっている雰囲気があるので、それを表す児童会旗にしたい。

◆ 刷新するにあたり、取り組んだことは?

新しいデザインを募集した。その際、これまでの附属小の伝統も大切にしてほしいことも伝えた。

◆ どれくらいの応募があったか?

50程度の応募があった。集まったデザインを委員会の人みんなで確認し、選んだ。

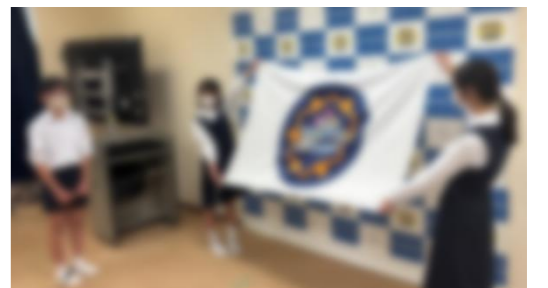
◆ 完成した児童会旗を見て感じたことは?

附属ブルーが美しく、さらによりよいものになった。みんなの思いが詰まった児童会旗ができてとてもうれしい。

みんなの思いが込められている新しい児童会旗を、毎日、丁寧に旗揚げします。(仲良し交流委員会 吉野新さん)

今年度は、子どもたち発信の取組が増え、主体性の高まりを感じるとともに、よりよい学校にするために自分たちも参画していこうとする気持ちの高まりを実感しています。

～表しているものや込められた思い～
 中央の建物…附属小の児童玄関
 5つの星…い・ろ・は・に・複式・先生方
 周りの6人…1～6年までの子どもたちが手
 をつなぎ附属小を盛り上げよう
 としている様子
 周囲の青い円…学びと育ちのステージ



【完成した児童会旗を紹介する委員会の子どもたち】